

医心 伝心

震災お見舞い

県医師会常任理事 長谷川 徹

熊本で大きな震災が起きました。被災された方々に心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

一命を取り留めながらも、住む家を失った方々には、今後も様々な援助が必要だと思います。本稿が掲載される頃には医師会 JMAT をはじめとして、全国からボランティアや救援物資が届けられていることでしょう。一日も早い復興をお祈りしています。

ところで読者の皆さんは、緊急事態に遭遇し「この中にお医者様はいらっしゃいませんか？」と尋ねられたことはありますか。子供の頃、映画か何か(確か飛行機の機内ではなかったかと思います)のワンシーンでこのようなセリフを見て、なんだか胸の昂ぶりを覚えた記憶があります。

もし自分が本当にそう呼びかけられたら「はい、ここにいます。どうされましたか」と駆けつけることが出来るだろうかと不安になり、できることなら遭遇したくないなあという気持ちと、いや、医師になったからにはどんな時も人命を救うためにできるだけのことはしたいという使命感とが交錯し、あれやこれやと空想を膨らませたこともありました。

私は一度だけ、実際に経験があります。14~15年前、JR 西日本のサンダーバードに乗って大阪へ向かう旅行中のことです。富山、高岡、金沢、福井、の次は京都まで停車しない特急で、休前日だったためか廊下に立ち席が出るほど込み合っていた車内で、福井駅を出て間もないころに車掌のアナウンスがありました。

「お客様の中にお医者様はいらっしゃいませんか？ 2号車で急に体調を悪くされたお客様がいら

っしゃいます。どうかご援助をお願いします。」……『キタア!』

医者ではないふりをして黙っていようか、もし行って手に負えなかったらどうしようか、などと考えていたのは1秒もなかったと思います。私は立ち席の乗客をかき分けて、何両か先の2号車へ駆け出しました。

患者は70代くらいの男性で、顔面蒼白、意識朦朧、一目見てショック状態と思われました。傍らには奥さんと思われる女性が不安そうに佇んでいました。脈拍は微弱でしたが呼吸はしています。すぐに床に寝かせて下肢を拳上して呼びかけると、幸いスッと血の気が戻り、意識が戻りました。女性に聞くと心臓の持病があるが薬を持ち合わせているかはわからないとのことでした。しばらくするともう一人、「私も医師です」という乗客が現れ、最寄駅で救急車を呼んだ方がいいと助言されました。

湖西線に近江今津という駅があります。列車はその駅に緊急停車し、車掌が手配しホームに待機していた救急隊が患者を引き受け、事なきを得ました。不安に思うよりまず行動! だな、為せば成る! だな、と思ったものです。しかしヒーローを気取るつもりもありません。東日本大震災の被災地でなりすましの偽医者が出たことは記憶に新しいことです。

最近診療報酬改定で電子認証のツールとして脚光を浴び、なりすまし防止の一役を担うであろう『医師資格証』が医師会員には無料で発行されることとなりました。いざという時に備え、読者の皆様にもぜひ常時携行していただきたいと思っています。